

令和7年度 星が丘地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和7年11月8日（土）午後2時から午後3時10分まで
- 2 場 所 星が丘公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、河崎教育局長、高野中央区長、萱野市民局長、兼杉中央区副区長
- 4 出席委員等 15人
- 5 傍聴者 2人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	公民館を拠点として多くの住民が集うまちづくりについて
概要	<p>星が丘地区は多種多様な住民が居住しているが、地域の住民と交流を持っている人は限られており、ほとんどの住民は関係性が希薄している状況である。</p> <p>交流を深めてもらうためにも、多くの人たちに公民館へ足を運んで欲しいが、貸室稼働率は50%未満であり、新規利用者が増えていないと感じているため、さらに魅力的な事業が必要だと考えている。</p> <p>また、今まで市役所前の市体育館やほねごりアリーナ（北総合体育館）、ギオンスタジアムでスポーツクラブ等主催の教室に参加していた人が、市体育館の閉鎖や、高齢により運転が困難となることで、参加を断念することがあった。そういった人からは、近くにある公民館で同様の事業を実施して欲しいという声があり、実際に体育教室などが開かれれば、今まで公民館を利用していなかった人も興味を持ち、公民館を利用して新しい交流が生まれると考える。</p> <p>こういった要望を取り入れるためにも、行政で出来る取組として、市の直営よりも制約が少ない指定管理者制度の導入も一つの手段だと考えられる。公民館を指定管理者制度にすることで、民間のノウハウを取り入れた今までにない事業や地域の声を反映した事業を展開することができ、公民館を地域の拠点として、市民に親しまれ、多くの利用者がいる場所になって欲しいと考える。</p>
地区の取組状況等	<p>星が丘地区では、高齢者に対して、百歳体操やいこいの広場などの居場所作りを実施し、外国人に対しては、防災訓練やふるさとまつり・ふれあいフェスティバルへ参加してもらい交流を深めた。</p> <p>また、地区社会福祉協議会主催で公民館の敷地を借り、障がい者施設と共同の避難訓練を実施した。今後の展開としては、沢山の人たちと触れ合う機会を単発で実施するのではなく、毎週同じ曜日に実施し、継続的に施設の人や外国人と話しが出来る場づくりを公民館で実施したいと考えている。具体的には、公民館の出入り口横の軒下部分で、近隣の社会福祉法人をはじめとした団体による定期的な販売会を行う予定である。</p>
市の取組状況等	<p>初めに、公民館に関する本市の取組について説明する。</p> <p>公民館は、社会教育法の規定に基づき設置する教育機関であり、地域住民の生涯学習を推進するための拠点施設として、市内に32館設置している。</p> <p>本市の公民館の特色は地域から選出された「公民館長」を配置するとともに、地域の方々により組織された「公民館運営協議会」や「専門部」等が中心となって、公民館事業を展開している。</p> <p>地域の伝統や特色、独自性を活かした、住民主体による公民館運営を行ってい</p>

ることが、本市の大きな特色となっている。

次に、公民館が重点的に取り組んでいることについて説明する。

地域を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、公民館に求められる役割も変化してきており、これまでの「学びを通じた地域住民の絆づくり」や「コミュニティの醸成」に寄与するという役割を維持しつつも、新たな事業展開が求められている。具体的には、社会状況の変化に対応した学習機会の充実、無料学習支援や子ども食堂への会場提供といった「子どもの居場所づくり」をはじめ、SNS等を活用した公民館事業の効果的な情報発信に取り組んでいる。

一方で、公民館事業の担い手の減少、特に若年層の人材不足や、施設の老朽化、高齢化に伴う利用者の減少や固定化が課題となっている。また、社会教育法の規定により、営利、政党、宗教等に関する活動については、利用の制限があることから、今回、ご提案いただいた、スポーツクラブなどが主催する教室は公民館を利用できないケースも生じており、より多様な目的での利用を可能としていくことが、喫緊の課題であると認識している。

星が丘公民館については、昭和33年に星が丘小学校の講堂の一部を借用して設置した後、昭和57年に現在の建物を建設し独立公民館となり、以来、地域の様々な活動の拠点としての役割を果たしてきた。昨年4月には、長寿命化改修工事によりリニューアルオープンし、ロビーの一角に新たに設置したフリースペースには、放課後、多くの子どもたちが集まり、思い思いに過ごすなど、地域の拠点、子どもの居場所としての魅力が向上したものと考えている。

星が丘公民館振興計画においても「地域みんなのいこいの場・仲間づくりの場に」を運営目標と定め、地域の皆様と協働し様々な事業を実施しており、令和6年度には、学級や講座、公民館まつりをはじめとした46の事業を開催し、約3,500名の参加をいただいた。

なお、星が丘公民館の事業推進体系図や、令和6年度公民館事業の一覧を資料として配布したので参考にご覧いただきたい。

次に、ご提案いただいた「指定管理者制度の導入」について説明する。指定管理者制度は、多様化する市民ニーズにより効果的、効率的に対応するため、公の施設の管理に民間のノウハウを活用しながら、市民サービスの向上と経費の節減を図ることを目的に創設されたものである。

本市では、各施設の特性を踏まえ、指定管理者制度導入の効果を検証したうえで、順次導入を進めており、令和7年10月現在、福祉施設や公園・スポーツ・レクリエーション施設を中心に、144の施設において導入されている。

また、文部科学省が令和6年度に実施した社会教育調査では、図書館、体育施設、ホールといった社会教育関係施設全体の指定管理者制度の導入率が約33%となっている一方で、公民館については、約11%と低い導入率となっている。

現在、再整備を計画している公民館のうち、淵野辺駅前にある大野北公民館については鹿沼公園のリニューアルとともに、図書館をはじめとする、老朽化が進む周辺の施設を集約した複合施設として整備予定であり、これまで、公民館が担ってきた、貸室の運営・管理について、複合施設の貸室として、他の施設の貸室と一体的に管理することで、利用者の利便性が図られるため、指定管理者に委ねることとしている。

	<p>なお、公民館事業の企画・実施については、従来どおり直営とし、引き続き地域の方々とともに運営をしていきたいと考える。</p> <p>本市の公民館は、地域の方々とともに積み重ねてきた歴史があることから、「指定管理者制度」など、民間活力の導入にあたっては、費用対効果や地域コミュニティへの影響を検証するほか、現時点において、運営を担っていただいている地域の方々のご意向にも寄り添うながら、丁寧な議論が必要であると考え。そこで、現在の運営体制で取り組めることとして、地域団体や大学、地域で活躍している店舗や事業者との連携の幅を広げることにより、新しい発想での事業展開に取り組めるものと考え。また、先ほど、課題としてお話した、公民館利用の制限への対応について、地域の実情に合わせて柔軟に利用していただけるよう、庁内ワーキングを設置して、公民館の利用承認基準等の見直しについて、検討を進めている。</p> <p>星が丘地区では、地域団体の提案により、障がいを持つ方や外国籍の方といった多様な地域住民の皆様が交流をする場として、地域団体と障がい者施設による定期的な販売会を星が丘公民館との共催で行う新たな取り組みを行うと聞いている。</p> <p>公民館が地域の拠点として、市民に親しまれ、多くの住民が集う場所であるよう、地域の皆様の意見をいただきながら、一緒に考えていきたいと思う。</p> <p style="text-align: right;">(河崎教育局長)</p>
--	---

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>公民館の駐車台数が少ないため、雨天時は、出入り口付近の通路側に縦列駐車させざるを得ない状況である。そのため、公民館の隣にある星が丘小学校の敷地の一角を駐車場として貸していただくことはできないか。</p> <p>星が丘小学校の敷地には、かつて茶畑があった場所があり、現在は、落ちた銀杏を埋めるゴミ捨て場となっている。この場所を公民館の駐車場として貸していただければ、10台程度の駐車スペースが確保でき、問題が解消する。</p> <p>費用面の調整は必要となるが、ぜひ庁内で検討して欲しい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>公民館の駐車場の台数が現状少ないという認識は持っている。</p> <p>近隣の事例として、清新公民館の改修工事を行った際、清新小学校敷地の活用を検討したが、最終的に民間駐車場を利用することにした。学校敷地の活用には、樹木伐採など課題が生じる場合がある。近隣の民間駐車場を公民館の駐車場として確保できないか引き続き調整を行い、最適な方法を探っていきたい。</p> <p style="text-align: right;">(河崎教育局長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>公民館報を毎回読んでいるが、未だに公民館報は白黒印刷である。公民館報をインターネットで入稿し、フルカラーに変更すると現在に比べ発行費用は概ね3分の1に削減できる。</p> <p>市全体で、広報物の印刷を一括発注する仕組みを見直し、各公民館単位で予算を発注する仕組みに変え、各館の創意工夫の1つとして、公民館報のフルカラー化を進めていけば、費用の削減もできる。ぜひ検討して欲しい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>公民館報をフルカラーにして、なおかつ費用削減も図られるということであれば、費用対効果や入稿体制などを確認し、来館者のご意見も伺いながら検討を進</p>

	<p>めていきたい。(河崎教育局長)</p>
市の発言	<p>駐車場の台数が不足している点についてお詫びする。</p> <p>市長就任当初、清新小学校「冒険の森」の駐車場整備計画があったが、安全面や学習環境への配慮から、学校敷地内への駐車場設置を断念し、近隣駐車場を借用して駐車場用地を確保した経緯がある。</p> <p>星が丘小学校の敷地は、教育財産のため、教育委員会と十分協議を行いながら、周辺の民間駐車場の活用も含め、駐車台数が適正となるよう検討していく。</p> <p>また、公民館報のフルカラー化による費用削減について承知していなかったが、提案を踏まえ、見やすさも考慮して検討していきたい。(本村市長)</p>
地区の発言	<p>公民館は地域の拠点として位置づけられているため、指定管理者制度の導入を考えていくべきである。</p> <p>現在の貸館業務のみでは稼働率に限界があり、職員数にも制約がある。民間ノウハウの導入で、地域の方がもっと参加しやすい事業を拡充していくことが重要である。公民館職員は人数が少ないため自主事業を毎日できる訳ではない。</p>
市の発言	<p>星が丘公民館と同じ規模である東林ふれあいセンターや相模湖リフレッシュセンターは、指定管理者制度を導入し、地域の方々が事業を行っていると聞いている。一方で地区によっては、貸館業務と自主事業の2つのバランスを確保することに苦労していることも承知している。そのため、持続可能な運営の在り方を精査し、関係事業者の意見も伺いながら検討を進めていきたい。</p> <p>(河崎教育局長)</p>
地区の発言	<p>午前中に、星が丘公民館でミステリー小説家の講演会があり、多くの方が来館した。その時に、近所に住む人から「公民館を訪れるのは、子どもの時以来」という声を聞いた。</p> <p>公民館の稼働率が低いなら、公民館に来てもらえる事業をどう増やしていくのかを、皆で考えていく必要がある。公民館のトイレは非常に清潔で評判も良い。散歩途中の人が、いつでも気軽にトイレに立ち寄りたくなるような、開かれた公民館運営となるように工夫して欲しい。</p>
地区の発言	<p>公民館のリニューアル直後は、従来の利用者の利用が中心だったが、最近是新規の利用者が増加している。外観の視認性向上や、鏡付き多目的室など設備を改善したことが評価されている。隣接する陽光台にお住まいの方からも「こちらの方が来やすい」との声があり、口コミで利用が拡大している。また、認知症の人やその家族を支援する「オレンジカフェ」という事業を開催しているが、知らない顔の参加者がとても増えている。貸館事業の稼働率だけでは推し量ることができない拠点性の高まりを感じている。そういう意味でも、すごく良い方向に向かっている。</p>
地区の発言	<p>利用率向上には、提供側の計画だけでなく、利用者ニーズの吸い上げが有効である。アンケートを使って、「やりたいこと」「場所の要望」等を把握していけば、利用率を上げることができる。</p> <p>実例として、星が丘一丁目自治会の自治会館では、高齢者向けの体操や麻雀などの利用希望が出ている。また、スポーツクラブでも、座学事業による利用の要望が出ており、今まで月1回の利用が、現在は、週1回の利用頻度に拡大している。</p>

	<p>早めに効果を上げたいと考えるなら、利用者側の声を拾う手法を並行して進めるのがよいと考える。</p>
地区の発言	<p>「社会教育施設」という言葉に抵抗感がある。過去にやりたい事業を相談した際、「社会教育施設だから」という理由で断られたことがあり、憤りを感じた。</p>
市の発言	<p>公民館は教育基本法・社会教育法に基づく施設だが、柔軟な運営を行っていくよう国から市に通知が届いている。公共施設としての一定の利用制限は必要だが、直営・指定管理を問わず運用の柔軟性は求められている。利用承認基準は、平成22年に見直しを行ってから、長らく改定をしていない。そのため、現状に即して、営利性の線引きを明確化し、使いやすさの向上を図っていきたい。</p> <p>(河崎教育局長)</p>
地区の発言	<p>星が丘地区には、障がい者施設が8箇所あり、災害時の初動避難先として公民館の活用を検討したことがある。検討した当時は、公民館は避難所として利用できなかったが、近年は、一定条件を満たせば、避難場所として利用できるようになったため、改善を実感している。</p>
市の発言	<p>星が丘公民館では、台風の際に高齢者などの受け入れを行った実績がある。市長の指示の下、他の公民館でも、マンション火災時の住民の一時避難場所として、受入体制を整えた。今後も状況に応じた避難者の受入体制の整備に努めていく。</p> <p>(河崎教育局長)</p>
地区の発言	<p>昨年10月、近所で火災があり2軒の住宅が全焼した。避難する場所に困り、星が丘公民館に相談した際、快く受け入れてくれ、非常に心強く感じた。そのことを近所の人に話したところ、「公民館に避難しても良いの」「助けてくれるの」といった声があった。</p> <p>災害発生時に公民館が避難できる場所であることを、もっと周知していけば、地域住民の安心にもつながると思う。</p>
地区の発言	<p>星が丘公民館から遠方に住む方や移動が難しい方には、星が丘公民館までの距離は課題となっている。そのため、自宅周辺に集まれる場所がたくさんあると良い。私の自宅は、星が丘公民館から遠いため、普段は近隣の県営横山団地の集会所を利用している。</p> <p>県営横山団地は老朽化による建替えを順次予定しているが、新たに整備される県営横山団地のコミュニティルームは、比較的面積が狭くなるのではないかと聞いている。県の管轄ではあるが、より広いコミュニティルームのスペースが欲しいとの声が出ている。</p>
市の発言	<p>星が丘地区は、まちづくりセンターがない。</p> <p>公民館は地域に住む人にとって非常に重要で、星が丘小学校同様、地域にとって貴重で、大切にすべき公共施設の一つであると考えます。</p> <p>公民館は、これまでも地域のまちづくり活動の中心的な役割を担ってきた。</p> <p>公民館まつりも、他の地区と比べ、参加者が非常に多く、地域の力の強さを実感している。長年にわたり、多くの住民が関わり続けており、その活気は他の地区では、なかなか見ることはできない。</p> <p>一方で、公民館の稼働率の低さの課題もある。</p> <p>今後は若い世代の参加を促していく必要がある。すでに地域の4団体によるイベント運営が活発に行われ、他地区と比較しても、公民館の活動は充実している</p>

	<p>と感じているが、更に、中学生や高校生が利用しやすい環境づくりを進めていくことが望ましい。</p> <p>市でも、若い世代の参画を促す取組を検討している。こうした新しい視点を取り入れることが、公民館運営やまちづくりの新たな展開につながると考える。指定管理者制度のあり方も含め、地域の力を生かし、若い世代も含めたアイデアを出し合える仕組みを検討していきたい。</p> <p>また、災害対応にも課題がある。台風や火災の際、避難すべきか否か判断が難しい状況では、行政が調整しやすい反面、指定管理者制度の場合は、避難先としての調整が難しくなる恐れがある。昨年、市で公民館の避難場所としての利用についての調整を行った際、公民館で活動する方や避難者など、立場の異なる方の調整はとても重要であると感じた。立場の異なる方をどのように調整するかが、今後の大きな検討課題だと認識している。</p> <p>本日の懇談会を通して、星が丘公民館が、地域の皆さんに大切にされていることが伝わり、大変うれしく、また励みとなった。今後も地域の力を生かしながら、課題解決に取り組んでいきたい。</p> <p style="text-align: right;">(萱野市民局長)</p>
--	--

<p>市長の感想等</p>	<p>星が丘地区には8,338世帯、17,418人の方々が暮らしており、その象徴的な施設は星が丘小学校と星が丘公民館である。私も地域のイベントにたびたびお邪魔しているが、星が丘地区は非常に活気のある地域であり、住民の皆さんが熱心に活動されている姿が印象的である。公民館はその中心的な役割を果たしており、地域の絆を深める重要な場となっている。</p> <p>令和5年度には公民館の大規模改修を行い、新たな段階を迎えているが、公民館の運用に関しては、社会教育法に基づいた施設であることから、市民の皆さんにはやや分かりづらい部分もあると感じている。公務員として法律に則った運営を行っているが、実際に利用される市民の立場からすれば、もっと柔軟で分かりやすい形にしていくことが必要ではないかと考える。</p> <p>今回、公民館の改修でフリースペースを設けたことにより、子どもたちの居場所ができたことは大変意義深い。最近では高校生の居場所づくりの必要性も強く感じており、世代を問わず地域の皆さんが気軽に集まれる場所としての公民館の役割をさらに高めていきたい。</p> <p>星が丘公民館の利用率は44.8%で、全32公民館の中でも比較的高い水準である。駅から遠いにもかかわらず、多くの方々に利用されており、地域の利用意識の高さを感じる。しかし、まだ利用率は5割に届いておらず、さらに多くの方に利用してもらえるよう工夫が必要である。駅から近い公民館では、大野北地区が64%、小山地区が60%と高い利用率を示しているが、星が丘地区は駅が近くにないことを考えると、十分に健闘している地域だと思う。</p> <p>今後は、社会教育法の枠組みを守りつつ、より使いやすい公民館のあり方を模索していきたい。公民館は特定の人のものでなく、市民全員の財産である。</p> <p>公民館は地域の中心として、誰もが気軽に利用できる場でなければならない。後藤館長をはじめ、現場で尽力されている皆さんの努力に感謝する。</p> <p>今後も柔軟な運用ができるよう市としても研究を進めたい。</p> <p>また、皆さんからの貴重な意見は、しっかりと受け止めて今後の施策に活かし</p>
----------------------	---

ていく。避難所や地域活動の拠点としての機能も含め、公民館がより多くの市民に愛される場所になるよう取り組んでいきたい。

星が丘地区は、地域のまとまりがあり、小学校も「星小」と呼ばれるほど地域に根ざしている。こうした一体感を大切にしながら、公民館をより魅力的で使いやすい施設にしていきたい。

いただいた意見や提案は、持ち帰って、職員と共有し振り返りを行う。

今後もお気づきの点があれば遠慮なく知らせてほしい。市民の皆さんに愛され、親しまれる公民館にするため、市も引き続き努力していくので、今後とも協力をお願いしたい。

(本村市長)